ミシガン州立大学における造園教育について

大 石 道 義*

はじめに

本報は、ミシガン州立大学 (Michigan State University—以下、M. S. U. と略称) における造園学及び造園教育の紹介である。造園教育のさかんな米国にあって、その歴史も古く、よりオーソドックスと評され、常に改善と工夫を怠らない M. S. U. の造園教育体制は、文化的社会的基盤の相違ぬきには考えられないにしても、示唆深いものと思う。特に本報では、教育現場の具体的な教育手法やシステマティックな教育体制について、紹介したい。

1. M. S. U. について

M. S. U. は Land grant school として、1855年、米国で最初に設立された州立の農学単科大学を前身としており、現在は 17学部、100 を超える学科から成る総合大学に発展してきている。したがって、造園教育の歴史も古く、造園学講座の開設は1865年であり、これはオーガナイズされた造園のコースとしては、全米で最初のものである。そして、そのキャンパスは五大湖地方特有の氷河丘陵地形に 5,000 ha 余を占め、Arboretum park の別名とともに、世界的にも最も広大で美しいものの1つに数えられ、その計画管理の巧みさについても米国国家より National Award が授与されているということである。

M. S. U. メインキャンパス

2. 造園学科の概略

2-1 造園学科の特徴と変遷

M. S. U. 学部学科構成における造園学 (科) の位置づけは、社会科学部に属し、「社会科学部、都市計画及び造園学科、造園専攻」というかたちになっている。(College of social science, school of urban planning & landscape architecture, division of landscape architecture)

M. S. U. における造園教育は、農学分野でのガーデニングを発端としているが、米国社会における造園の意義や使命の変遷に伴って、M. S. U. の造園教育も逐次、変遷してきている。特に、現在、社会科学部に属している背景は、造園活動が社会と密接な関係をもつことの認識の深さを物語っているといえよう。ちなみに、M. S. U. の造園学科の歴史を概観してみるに、造園学の一般的展開と同様にガーデニングより出発し (1865: ランドスケープガーデニング講座開講、都市の美装にも及び、都市計画部門を派生させ (1923: 都市計画講座を造園科内に開講)、更には学科部門として独立せしめ (1946: 都市計画専攻科を新設するかたちで、造園学及び都市計画学科に再編成) 今日に至っている。

2-2 M. S. U. における造園学について

M. S. U. における造園学については、カリキュラム紹介で、具体的な概要を知ることになるが、M. S. U. の U. P. L. A. (School of urban planning & landscape architecture の略称) 発行の小冊子¹⁾ から、M. S. U. における造園の定義を抄訳しておく。「造園は、公衆の衛生や安全、福祉のため、土地の分析及びデザイン、管理に、科学的基礎を応用する技術を取り扱う職能である。造園の実務は、最適な人間の利用と慰楽のための物的環境を改良し、維持していくために、自然や社会のプロセスに対する理解と応用力、創造的イマジネーション、誠実な探究心を要求する。」そして、その具体的な活動については同様に、「卒業後は、設計事務所、土地開発会社、公共計画機関、公園及びレクリエーション機関、教育

* 西日本短期大学 造園科

及び研究機関等において、建築家や土木家、生態学者、プランナー等と協働したりしながら、資源解析や敷地開発計画、土地利用計画等、フィジカルな計画を行なう。」としている。

2-3 教育内容の概要について

M. S. U. の造園教育の骨格は、①デザイン理論及びグラフィックコミュニケーション、②環境学概論及び物的環境創造史、③植物材料及びその利用法、④敷地開発の技術的解決、⑤典型的なプロジェクトに対する敷地計画や土地利用計画の手法、⑥コミュニティ計画、⑦居住地計画、⑧レクリエーション地開発、⑨都市及び地方計画等である。尚、M. S. U. の学科体系には、造園学科と近接な関連学科も多い。例えば、自然公園及びレクリエーション資源の管理運用や公園行政、環境教育等を内容とする自然資源学部の Park & Recreation resources 学科もそのひとつである。

3. M. S. U. における造園教育について

3-1 学生及び教授陣

Bachelor of L. A. (B. L. A. と略称——造園学士) 修得希望者の入校には、一定以上の高校時の成績が要求され、修得に対しても、必要単位数 (192単位) のみならず、総履修科目の平均点が一定以上であることが要求される。(各科目4.0点満点の評価制で、その総合平均が2.0点以上であることが必要。) 一方、常勤のスタッフは10名程で、国際的活動を含む実務経験豊かな陣容を特色としている。教官の「研究と教育のバランス」は常に問題となるが、M. S. U. では、教育に注ぐエネルギーが強いと感じられる。学生についても、今ある造園学の確実な履修修得に多忙で、例えば卒論研究にしても、我国のように一年がかりで本格的にとりくむ様子はない。この点は、日米の造園教育の大きな相違のつと思われ、多面的な教育効果の点から、筆者は我国の卒論研究の本格的にとりくみを、おおいに評価したい。

3-2 教育年限

B. L. A. 修得のための教育年限は5年間だったこともあるが、現在は4年間であり、厳しい勉強態度が要求される。特に演習課題をこなすには正課の授業時間の数倍は必要であり、前述の卒論課題の比重の低さ共あわせ、学生時代に必要と思われる思索の時間の余裕を欠かせ、問題ではないかと思ったりする程である。その点を学生達は、専門に対する情熱や努力、時間管理の巧みさ等で解決しているようであるが。

3-3 カリキュラムとその基本方針

M. S. U. における造園教育は、哲学、理論、及びそれらの応用を重視した、正に実戦志向のものであり、非常に周到でシステマティックな体制がしかれている。そ

れは、社会の要請に応えるべき教育の質量、両面での充実の必要性と、それに関連するランドスケープアーキテクトライセンス制度を考慮してのことと思われる。科目相互の連絡連繫が徹底し、各科目は、独自の内容と程度をたもち、いわゆる他科目との内容の重複や欠落もなく上級学年になるにしたがって、基礎から高度にすすんでいく。その詳細は後述するとして、先ず、特にアメリカ的と思われる教育手法についてふれておきたい。

4. 特に教育手法について

M. S. U. の授業は、年間、秋・冬・春・夏の4ターム、1ターム10週、週5日、1時限50分の徹底したリズムで行なわれる。(但し、夏学期は、特別な場合を除いて夏期休暇となる。) 限られた時間に一定の履修量を消化しなければならず、このことが、教員学生双方に緊張及び意欲を与えたとともに、授業の能率化のための努力や工夫を要求することにもなっている。

4-1 コミュニケーションの徹底

M. S. U. の合理的造園教育の実践は、その周到な授業計画はもとより、教員と学生間の緊密なコミュニケーションの徹底にも支えられているといつてよいだろう。即ち、いつ、何について、どういうふうに学ぶのか、そのためには、どんな準備や予習をすればよいのか、課題であれば、どういう観点で採点されるのか……といった事項に代表されるような要件の明確な伝達と了解の上で、授業は進行していく。それから、各科目間の連絡も緊密なので、各担当領域区分も、全体のカリキュラム体系のなかで明瞭に認識されている。

先ず、授業初日のオリエンテーションでは、Course organization & policy statement (授業要領) が、主に① Course description (コース概要) ② Course objectives (コース目標) ③ Prerequisites (本講を受講するのに必要とされる履修済み教科群) ④ Assignments/Requirements (履修要件) ⑤ Teaching techniques (教育手段) ⑥ Evaluation criteria & procedures (評価手順及び基準等) が、Handouts (配布プリント) により、詳細に公表される。これが軸となって、授業は進行していくのである。各授業毎にも、Reading assignments や課題要領、採点基準等が詳しくプリントで示される。そして、特記すべきことは、授業運営や配布資料、指定図書といったものの適切性等について、独自に学生の意見を求める教官もいることである。これには、学科共通実施の Teaching evaluation (教官評価) とともに常に改善を怠らぬ姿勢を感じさせられる。Teaching evaluation は全米的なものでもあるが、その結果は雇用関係にも影響してくるもので、学期終了期に各教科の担当教官に対して、次のような項目で5段階評価が学生に求められるものである。そして、この結果は、学科内図書室にて公表

される。①教育目標は、いかに要領よく明示されたか。②いかにうまく、その目標は遂げられたか。③教員の教材の活用及び教育手法を評価せよ。④教育内容を評価せよ。⑤課題は、あなたの勉強にいか程貢献したか。⑥あなたの教育的完成についての教員のフィードバックを評価せよ。⑦評価システムについてどう思うか。⑧学生の授業への参加度及び関心度をどうみるか。⑨いか程その授業は、教育的に鼓舞的かつ挑戦的であったか。⑩その教官から、他の授業科目を受講することについて、その是非を示せ。⑪教室外で、いかにその教官は、あなたの勉学上の個人的必要性に答えてくれたか。⑫教官の教育者適性について、総合的に評価せよ。⑬同単位数の他の科目と比較して、Work load (履修内容量)を比較せよ。更に演習科目については、以下の設問が追加される。⑭いか程、うまくそのコースは、グラフィック術とデザイン概念、及び基本的科目の教育内容と調和がとれていたか。⑮文章、口頭及びグラフィックによる各意志伝達表現法の履習上のバランスは、いか程であったか。⑯課題要領では、課題内容や評価システムはいかにうまく明示伝達されたか。⑰Lecture sections (講義)とCourse lab (演習)とは、いか程うまく関係づけられていたか。そして、最後に“How would you improve this course?”に対する応答が論文式で求められる。

4-2 資料配布体制

授業を活かしきり、学習内容をシステムティックに整理していく上で、M. S. U. は、資料配布にも気を配っている。Handoutと呼ばれる資料プリントは、一科目平均30枚位ずつ、授業進行に合わせて10週間の内に配られる。順次、ファイル整理していけるように、Handoutは、学校、学部、学科、科目、担当教官、作製年月日がありこまれた一定の書式と大きさに統一してあり、通し番号及びファイル穴がつけられている。

それが発達したものとして、Site engineering (数地工学)や、Landform design (地形デザイン)等のように資料が多くなる教科では、Syllabusと称されるものがある。それは、担当教官の独自の編集による講義摘要集ともいえるべきもので、新学期前に学内のブックストアで販売される。これも、市販のファイルで簡易製本できるように、規格の統一及びファイル穴が施してある。

4-3 課題読書

前述したように、講義要領 (Course organization & policy statement) 中の講義スケジュールには、各日程毎の講義テーマが示されており、その講義までに読了しておくべき関連課題読書リストが公表される。指定図書のリストが、膨大かつ、詳細な指示が必要な教科については、各授業のたびに、次週のための課題読書が、数枚のHandoutsにより示される。いずれにしても、これらは、①Required texts (必携・必読図書)、②Recommended

texts (推薦図書)、③Prerequisite texts (当然、読了体験のあるべき図書)の3段階位にわけられていて、授業テーマを成す各項目とそれに対応する指定ページ付きのリストである。更には、各図書の章・節毎に、①Read (読む)、②See (見る)、③Skim (ざっと目を通す)、④Scan 細かに調べる)、⑤Note (ノートをとる)の指示が与えられることもある。ともあれ、講義は、これらの指定読書が果たされたものとして、すすめられていくかたちである。

全米的でもある指定読書制には、大学図書館がおおいに機能している。指定図書は、①Books (単行本)、②Articles (記事)、③Periodicals (定期刊行物)、④Reports (報告書)、⑤Drawing set, drawing file (実務図面集)等を骨格としている。そして、それらには、絶版のもの、極めて高価なもの、個人入手しにくいもの、担当教官による独自の私的編集ファイル等が含まれている。図書館は、それらを、各科目毎に、数人分ずつ準備した指定図書カウンターを設け、真夜中遅くまで、時間制で学生の閲覧にに応じているのである。

一方、指定図書とは別に、全科目共通で紹介される造園学関連のSelected bibliography (参考図書目)があり、学内外のどこの図書館、機関に蔵書があるかといったことまで、示されている。

4-4 教育手段

Teaching techniques (教育手段)の形態は、講義系の場合、①通常講義、②討論及び個人発表、③指定読書、タームペーパー (課題論文)等の課題、④視聴覚教材の活用等を柱としている。演習系科目では、①課題の前、途中、終了期における批評や示唆、②セミナー及び討論、③指定読書、④視聴覚教材の活用、⑤視察研修 (Field trip)等を骨格としている。いずれにしても、教員と学生の密なコンタクトを重んじ、理論の構築や、その口頭・文章・図面による伝達表現や討論能力の育成を重要視している。

4-5 履修要件及び評価

科目修得に必要な要件は、その要件の評価全体に対する比重や配点割 (Grading weight) とともに示される。例えば、講義系の場合、①小テスト (Quizes) —10%、②中間テスト—20%、③学期末テスト—30%、④課題論文—30%、⑤特別課題—10%といった具合である。演習系の場合も同様に、各課題毎に、割り当て授業時数と評価全体に対する配点比重の一覧表が、予め公示される。そして、各課題の採点要領や基準も、後述するように詳細に示される。

4-6 視聴覚資機材の活用

その是非はともかくとして、授業の能率化・集約化を図るため、オーバーヘッドプロジェクターや映画、スライドの映写等にシステムティックな工夫がなされている。

教官によっては、各授業テーマ毎に、タイトルから始め、ストーリー的に当日の要点、板書すべき内容、関連する実写スライドや文献・絵ハガキ等からの複写スライドを整理・編成し、いわば、一卷物に仕上げた自主制作スライド上映を軸とした授業が行なわれることもある。又、スライド映写機を複数台持ち込み、周囲の壁面に同時複数面映写をして、その効果をねらうこともある。

又、指定読書と同様なかたちで、指定視聴覚というべき課題もある。それは、A. S. L. A. や A. I. A. (The American institute of architects)、道路局 (The bureau of public roads)、合同製作のAudio Slides (解説テープ付き視聴覚スライド)の視聴を、学科内常設の視聴覚室で、放課後等に個人あるいはグループに課すものである。ところで、A. S. L. A. Foundation は、Programmed teaching materials として、造園に関する出版物や、Audio slides等の教育資材を、単独で、場合によっては合同で、組織的に制作販売してきているが、我国でも検討されてよいことであろう。

4-7 特に設計演習の評価について

究極のところ、最も重視していると思われる設計演習では、課題完成に対する迅速性、正確性、審美性はもとより、最終計画図面に至るまでのプロセスを重んじ、特にグラフィックコミュニケーションをととしての「Reasonableさ」を求めている。一枚の平面計画図に到達するまでに、多くのトレベと時間が費やされるわけで、採点もそのプロセスを追って評価されるのである。いわば、採点は、教官と学生の質疑応答が、Professional formにまとまったプロセス図面でなされ、会話でもって補足される形である。しかも採点は、100点満点の点数制がとられており、課題告示の時に採点小項目とその配点割とが示される。(Evaluation criteria) これは、評価に客観性及び具体性をもたせ、Professional formの多くのプロセス図面の提出義務とともに、描画技術のみが偏重されるようなことをふせいでいる。例えば、Recreation area designのChildren playground 課題に先立ち、示された配点割は、①全体ゾーニング—20点、②樹種選定及び植栽・配植—20点、③遊具のデザイナー—20点、④技術的側面—20点、⑤描画技術及び図面の全体的まとめ方—20点といったことであった。Planting designの基礎的課題(住宅庭園計画)の場合だと、①描画技術及び全体的なまとめ方—10点、②気候緩和のための機能植栽—30点、③植栽デザインの審美的側面性—30点、④配植植物の選定—10点、⑤全体機能計画—10点というふうに、当該科目の強調点がうちだされている。各採点小項目毎に、点数が明示されるので、学生はその小項目毎に個人的反省や教員との質疑応答が可能で、効果的と思われる。

4-8 作品展示

更に課題作品は、終了後、学科内の壁面スペースに全員の全プロセス図面が掲示され、次の課題終了期まで、学生達は相互に批評しあえるしくみである。この壁面展示ひとつにしても、細かな配慮がされている。例えば、立体的、半立体的な各種模型等の制作の場合など、土台パネルの規格が統一され、掛け穴が義務づけられており壁面展示を容易にしている。総じて、課題提出後の再検討、反省を非常に大切にしているといえよう。

4-9 演習課題地の設定

計画設計現場の設定は、キャンパス内をはじめ、大学近郊や近隣の実在地におかれ、より実際の訓練として課されることが多い。これは、資料収集、分析、統合、計画設計といった一連のプロセスを実際に経験させる上で、効果的と思われる。又、それは、自治体との提案ともなり得るのである。Fundamentals of designに至っては、実際に自分達の使用する演習室の壁面デザインの課題にコンペ形式がとられ、最優秀作品が実際に共同制作として毎年、全員で具現化されるといった具合である。ところで、四年次生になるとStudio (演習室)に個人専用のデスク(パネル区切りによるスペース)が与えられる。Urban landscape designの初課題は、“Studio environment”でTotal studio (演習室全体)とIndividual space (個有スペース)の調和を考えた学生自身の使用していくこととなる演習室のインテリア計画に始まる。又、全米規模での一般のコンペも、関係科目が授業項目にとりあげ、全員を参加させることもある。特殊な例として、Environmental perceptionの本試験では、Observation test といって、オリエンテーションの時にキャンパス内や近隣の住区、街区の特定地を指定し、その学期間、個人観察させておき、その造園的観察に関わる設問を含めるというものもある。以上のような演習体験もさることながら、広大で、かつ、美しいランドスケープの多様なエレメントに恵まれたキャンパスライフ体験そのものも、Landscape architect たる人格、感性、フィロソフィといったものを育む上で、十分に貢献しているともいえよう。

4-10 演習プロジェクト

設計演習では、一般に、1週間や2〜3週間単位のプロジェクトが、個人あるいは2〜3人編成のチームに課される。そして、前にも触れたように、プロセスの論理性、作業の迅速性、正確性、チームとしての協調性に対する訓練が、徹底してなされる。普通、課題の完成には正課の配当授業時間の幾倍かを要する。実際に、課題要領のHandoutにApproximate work loadとして、完成に要する推定演習作業時間を示すことがあり、それによると最低5倍以上となっている程である。勉学環境として計画されたキャンパス内に住むことの多いことから、生活時間が短縮できたりすることは、プラス要件で

表 I

	FALL TERM (秋学期)				WINTER TERM (冬学期)				SPRING TERM (春学期)			
	科目番号	科目名	単位数	科目番号	科目名	単位数	科目番号	科目名	科目番号	科目名	単位数	単位数
1 年 次	LA 100	ENVIRONMENTAL PERCEPTION 環境計画入門	3	LA 110	FUNDAMENTALS OF DESIGN 色彩及び造形の基礎	5	LA 120	GRAPHIC COMMUNICATION 基礎図			4	
	MTH 111	COLLEGE ALGEBRA 代数学	5	Dir.El	(VERBAL COMMUNICATIONS Electives)	3	CE 251	ELEMENTARY SURVEYING 基礎測量			4	
	ATL 121	AMERICAN EXPRESSION 国語	3	ATL 122	AMERICAN EXPRESSION 国語	3	ATL 123	AMERICAN EXPRESSION 国語			3	
	NS 116	INTEGRATED STUDIES IN SCIENCE I 基礎自然科学 I	4	NS 117	INTEGRATED STUDIES IN SCIENCE II 基礎自然科学 II	4	NS 118	INTEGRATED STUDIES IN SCIENCE III 基礎自然科学 III			4	
	計		15	計		15	計				15	
2 年 次	LA 230	LANDFORM DESIGN 地形デザイン	4	LA 240	LANDSCAPE DESIGN METHODS 造園計画設計の基礎手法	4	LA 201	SITE PLANNING THEORY 敷地計画理論			2	
	HRT 211	LANDSCAPE PLANTS I 造園植物 (I)	4	LA 250	INTRODUCTORY PLANTING DESIGN 植栽及び配植デザイン	4	LA 241	SITE PLANNING STUDIO 敷地計画演習			3	
	SS 221	THE CHANGING AMERICAN METROPOLIS; ECOLOGY OF THE URBAN COMMUNITY	4	SS 222	WORK AND POLITICS IN URBAN AMERICA 都市部における労働及び行政	4	HRT 212	LANDSCAPE PLANTS II 造園植物 (II)			4	
	HUM 221	AMERICAN CULTURE HUMANITIES; THE VISUAL ARTS AND WESTERN CULTURE 美術及び西洋文化	4	HUM 222	HUMANITIES; THE VISUAL ARTS AND WESTERN CULTURE 美術及び西洋文化	4	SS 223	THE WORLD'S CITIES; AN URBAN CULTURE AND COMMON PROBLEMS 都市文化と都市問題			4	
	計		16	計		16	HUM 223	THE VISUAL ARTS AND WESTERN CULTURE 美術及び西洋文化			4	
3 年 次	LA 303	COMMUNITY DESIGN THEORY コミュニティデザイン理論	2	LA 304	HOUSING DESIGN THEORY ハウジングデザイン理論	2	LA 305	RECREATION DESIGN THEORY レクリエーションデザイン理論			2	
	LA 343	DESIGN OF COMMUNITY FACILITIES コミュニティデザイン演習	3	LA 344	DESIGN OF HOUSING DEVELOPMENTS ハウジングデザイン演習	3	LA 345	DESIGN OF RECREATION AREAS レクリエーション地計画演習			3	
	LA 321	ADVANCED GRAPHIC COMMUNICATION 応用製図演習	4	LA 360	ARCHITECTURAL DESIGN THEORY 建築デザイン理論	2	LA 353	FUNCTIONAL PLANTING DESIGN 機能植栽デザイン			4	
	GEO 324	REMOTE SENSING; AIRPHOTO INTERPRETATION リモートセンシング (航空写真解析)	4	LA 362	ARCHITECTURAL DESIGN STUDIO 建築デザイン演習	3	LA 333	SITE CONSTRUCTION 造園施工及び材料学			4	
	Elect.		4	LA 370	HISTORY OF ENVIRONMENTAL DEVELOPMENT 環境開発史	3	RD 417	LAND ECONOMICS 土地経済学			4	
	計		17	計		16	計				17	
4 年 次	LA 401	REGIONAL DESIGN THEORY 地域計画理論	2	LA 403	URBAN DESIGN THEORY アーバンデザイン理論	2	LA 499	LANDSCAPE ARCHITECTURAL DESIGN THESES 卒業論文			5	
	LA 441	REGIONAL LANDSCAPE DESIGN 地域計画演習	3	LA 443	URBAN LANDSCAPE DESIGN アーバンデザイン演習	3	LA 483	LANDSCAPE ARCHITECTURE SEMINAR 造園学セミナー			3	
	LA 451	ECOLOGICAL PLANTING DESIGN 応用生態学の植栽	4	LA 432	SITE ENGINEERING 造園工学	4	Dir.El.	(SOCIAL SCIENCE Electives)			4	
	LA 471	HISTORY OF LANDSCAPE ARCHITECTURE 近代造園史	3	LA 480	PROFESSIONAL PRACTICE 専門的演習	3	Prof.El.	(PROFESSIONAL Electives)			4	
	Dir.El.	(NATURAL SCIENCE Electives)	4	Elect		4	計				16	
凡例: (ATL) AMERICAN THOUGHT & LANGUAGE (MTH) MATHEMATICS (NS) NATURAL SCIENCE (CE) CIVIL ENGINEERING (SS) SOCIAL SCIENCE (HUM) HUMANITIES (GEO) GEOGRAPHY (RD) RESOURCE DEVELOPMENT (HRT) HORTICULTURE												

はあろう。しかしながら、それにもまして、学生の自分の専門への情熱や徹夜作業によって支えられているといっても、過言ではないだろう。したがって、独立建築である U. P. L. A. は、ほぼ 24 時間中、灯がともっていることが多くなる。ちなみに、一般学生間にあって、自然を考え、取り扱うという職責や、アウトドアライフ志向の国民性もあって、いわば、造園学が正当に認識され、人気がある反面、厳しい勉学態度が要求されることも、よく知られているところのようである。したがって、専門とはしないまでも、造園学自体に興味ある学生は、造園学の概論を論ずる科目等の受講に集まってくるし、(Visitor, Auditor), 又、M. S. U. は、そういうことの可能な柔軟で開かれた機構であることは、特筆すべきであろう。ともあれ、提出期限内に全力投球で仕上げ、完遂の際にはスケート会等に興じて一区切りをつけ、次の新たなプロジェクトへ臨んでいくのである。そして楽しい雰囲気ながらも、厳然たる厳しさを要求するこのワークスタイルのくり返しが、序々に学生を一人前の Landscape architect に近づけていくともいえるのである。

5. カリキュラム内容について

M. S. U. のカリキュラムは、基本的には、造園の一般的基础とその応用を施すべき造園空間類型を軸とし、それらを網羅したかたちで、講義と演習がくまれている。即ち、環境学総論や環境創造史、造形及び色彩、グラフィック及び文章表現、測量術、敷地計画術、地形デザイン、造園工学、造園施工及び材料、建築術、造園植物及び植栽術、生態学、自然資源学、自然科学、航空写真解析術、土地経済学、レクリエーション理論、社会科学、コンピューター活用術、空間類型別造園デザイン各論等の基礎が、終局的には、ハウジング計画、コミュニティ計画、レクリエーション地計画、アーバンランドスケープ計画、リージョナルランドスケープ計画等のフィジカルプランニング演習(ケース・スタディ演習)において、応用的に(=リーゾナブルに)昇華されるべきとするものである。講義と演習の時間的配分の比を、専門系必修科目の授業割当延時間数でみると、概略、講義が1で演習が2の割合となっている。ミニマム単位数(192単位)の内訳は、教養系必修科目が50単位(26%)、造園系必修科目が116単位(60%)、造園関連選択科目が26単位(14%)である。(教養系:造園系=26:74)

選択科目は、原則的には学科推薦の科目群から選ぶ。広汎な造園学の内容や学生個人の専門的興味に対処するために、M. S. U. の広範な学部学科構成の中から、選択できるようになっている。(それは、20学科、50科目程にも及ぶ)。又、個人的選択にも偏りのないよう、各分野を網羅することをねらって、①自然資源系科目群から3単位以上、②都市計画科目群から3単位以上、③高

度な造園専門科目群から4単位以上、④社会科学系科目群から4単位以上、⑤関連技術系から3単位以上、⑥言語表現系から3単位以上という選択のさせ方である。

おわりに

以上が一応の紹介である。本質的吟味には至らず、表面を追うにとどまり、どちらかといえば賞讃一辺倒的なことも十分認識しているつもりである。その点、本報はブレンストミング法的に参考にしていただきたいと思うし、又、米国の造園教育現場からの既出の報告をも参照していただかねばと思っている。ところで筆者は、造園に対する考え方や技術における日米両国間のこれまでの交流の成果を認めるものであるが、造園教育についても日米といわず世界的レベルでその重要性を感じる次第である。よく考えてみれば、よりアメリカ的として長々と説明を要した M. S. U. の教育手法も、現地アメリカにあっては、当然とはいえ、既に日常的なリズムとして実行、そして模索中なことばかりなのである。

ところで、広大な国土と希薄な人口を背景に短かい歴史過程で近代造園学の基礎をうちたて、現在も尚、世界各国に影響を与え続けてきている米国造園の伝統的フロンティアには確たるものを感じさせられるが、それは、米国民族がその英知と勇氣により、米国国土に定着し発展していく過程での一種の民族作品とでもいえるものであろう。一方、狭い国土に多くの人口、複雑多様な自然を背景に、長い歴史の過程で独特の自然との交渉を行ってきた我国には、既に指摘もされているように、その米国造園も及ばない程の今後の造園のリソースが潜在しているように思えてならない。その点、我国は、米国の先駆的偉業に勝るとも劣らずべく、その体系的解明とその応用展開にその国際的使命を果たさねばならぬと思う。そういう筆者の全く曲解かもしれない日米造園私感からも、造園教育充実の必要性を訴えておく次第である。

文 献

- 1) A guide to the Programs in Landscape Architecture U. P. L. A. — M. S. U.
- 2) Michigan State University 1974—75 Academic Programmes, M. S. U., 1974
- 3) Descriptions of courses 1975, M. S. U., 1974
- 4) Handouts (M.S.U.—U. P. L. A. 配布, 1974—75)
- 5) 大矢鋭治: ミシガン州立大学における造園学科について, 60F Journal of Landscape Architects, No. 2, 東京農業大学60F編集委員会, 1972